

マスク

市川茂子

訪^とい来るも行くもならずに巢ごもりのコロナ自肅はいつまでつづく
路地に入り塀より見ゆる新緑の木々のひともと山法師の花
帰り来て消毒スプレー自らにふりかけはじむ目を閉じながら
知り合いにマスク作りを頼まれぬ持参の布の見する人柄

マスク作りの見本を持ちて人は来るコロナ感染はげしくなりて
さまざまな形のマスクする人らテレビに映るをじつと見ている
大雨にコロナは流れ失せよとぞ明日の晴れを願うばかりに
たわいなき夢より覚めて起き上り感染の数でまた夜が明ける
留守の間に採りたての茗荷届きたり変らぬ友のまごころも受く
夕空に茜の雲の流れゆく事無きひと日しみじみ見上ぐ